

序

当教育研究所では、平成7年度も恒例の事業となっている教育論文集の刊行を企画し、論説の部、実践記録の部に分けて原稿を募集しましたところ、論説の部に4編、実践記録の部に11編の応募をいただきました。

論説の部では、本市の四人の英語指導助手がそれぞれの立場から本市の英語教育にかかわる感想、問題点、提案事項などについて述べております。関係者には是非ご一読いただき、更に議論を深めていただけたら幸いです。

実践記録の部につきましては、学校教育関係者から、互いに語り合える人間関係づくりを重視した学校教育改善の実践、子供が学習に感動し、一人一人が主体的に学習に取り組むような支援と評価の工夫をされた実践、これまでの授業実践を振り返りながら子供とつくりだす授業を目指し、これからの社会科授業の在り方をまとめられた実践、算数科における自力解決の場で手立てをつくる指導過程の工夫を通して、算数のよさに気づき自分で解決しようとする子供の育成を図った実践、理科における一人一人のよさを認め合い高め合いながら自己教育力を育てる学習指導過程の工夫に取り組まれた実践、音楽科における子供が自信をもって楽しく活動し、子供たちの中に生きる音楽を目指して取り組まれた実践、地域や学校の特色を生かし、子供たち相互のかかわりを重視した集会活動を通して、自主的、実践的態様の育成を目指した実践、体験を取り入れた学級活動において、豊かな心をもち主体的に生きようとする子供の育成を目指した実践、自ら考え判断し、行動できる生徒の育成を目指し、生徒会活動の活発化を図った実践研究をいただきました。また、社会教育、社会体育関係者から、公民館における青年層の方々が主体的に充実した活動が展開できるよう青年学級において取り組まれた実践、学校と地域が一体となった生涯スポーツの在り方を研究された実践など、いずれも今日的な教育課題に真剣に取り組まれた力作であります。

このように、多くの教育関係者の方々から日頃の教育的思索や研究実践の成果を発表していただきました。これらの論文は、読者のみなさんの教育観を深める大きな契機となるに違いありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも各教育現場における日々の実践に十分生かされることを期待いたします。

なお、今年度も、教育論文第1集から昨年度までに掲載された論文のテーマ及び執筆者一覧を付記しましたので、今後の研究の一助としてご活用いただけたら幸いです。

終わりに、論文をお寄せくださった研究者の方々をはじめ、関係の方々にお礼を申し上げるとともに、皆様ますますのご活躍を祈念して序といたします。

平成8年3月

足利市立教育研究所長

吉田哲也